



第 19 号

平成 27 年 11 月 1 日 発行

〒673-8588 兵庫県明石市北王子町 13-71
TEL 078-925-0860 FAX 078-925-0878

デザイン・印刷 株式会社 サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町 172
tel 079-284-1380 <http://www.salat.co.jp/>

けやき会とは：兵庫県立看護大学卒業生・兵庫県立看護大学大学院修了生、兵庫県立大学看護学部卒業生・兵庫県立大学大学院看護学研究科修了生、在学生、特別会員(旧現教員)を会員とし構成されている同窓会です。

けやき会HPリニューアルオープンお知らせ

けやき会HPをリニューアルオープンしています。

URL:<http://www.keyaki-kai.com/> E-mail:info2@keyaki-kai.com

内容の充実、管理情報の一元化とセキュリティの強化、電子媒体の利用によるコスト削減などを目的に、名簿管理や会報発行でお世話になっている株式会社サラトにHP開設を委託しました。コンテンツも充実しておりますので、ぜひご覧ください。



けやきの成長

けやき会 会長 芝田 健 輔

街路樹の葉も日ごとに赤や黄色に彩りを増していますが、けやき会会員のみなさまもお変わりなくお過ごしでしょうか。けやき会では毎年、看護学部へよりよいキャンパスライフを送ることができるように寄贈を行っています。この度は櫟の剪定を行うことに決定しました。1993年に大学が設立された当初からこのキャンパスのシンボルとして育ってきた櫟（けやき）。櫟は成長していくと高さ20メートル以上、ビルの高さで7、8階つまり明石看護キャンパスの最上階？にも達する、といわれる大きな樹木でその樹形は扇を開いたような形に似ているといわれています。成長のスピードも速いので、一般の家庭に植えられることは少ないようです。建築材料としても使用されており、その耐用年数は800年から1,000年といわれているようで、京都の清水寺の舞台は約80本の櫟で支えられているそうです。また、和太鼓の材として最高のものとされているようで、強度と耐久性に優れています。さらに紅葉といえば、いちようやもみじを思いますが、櫟も赤や黄色に紅葉するので、四季折々に様々な表情を見せてくれます。

さて、今回大学の身近にある櫟について色々調べてみましたが、

知らないことが多いなと思いました。私は保健師から看護師へ転職しましたが看護の現場ではまだまだ知らないことがあり、新たな発見に出会うことがあります。その度にひとつ知識が増え成長しているなと思います。また時々、病院のなかで兵庫県立大学看護学部の実習生に出会います。緊張しながら患者さんと接している姿を見ると、自分が実習していた頃を思い出します。その頃はずっと分からないことだらけで図書館に行っては本を見ながら考えていました。今はまだ目の前の業務を遂行し、患者さんや家族と向き合う臨床の現場で働くことが楽しく精一杯ですが、いつか余裕ができた時にはもう一歩踏み出して何かを調べたり、認定看護師や専門看護師の免許を取りたいと思う時がやってくるのかなと思うこともあります。その時は、「大学に戻ってきてください」と在学中に先生方がよく話されていたように大学でももう少し進路について考えてみることも一つの方法かと思います。

この会報が届いたことをきっかけに大学のホームページや先生方に連絡を取ってもらえれば光栄です。最後になりますが、いつまでも、みどり豊かで、看護学部のキャンパスのシンボルでもある櫟が成長していくことを願っています。



キャリアアップの ひとつの選択肢としての大学院

兵庫県立大学看護学部長 内 布 敦 子

卒業生の皆さん、お久しぶりです。2014年から看護学部長をさせていただいています。看護の技術、ヘルスアセスメント、がん看護…、いまだ現役で担当している内布です。

本学は、1997年に兵庫県立看護大学最初の卒業生を送り出すと同時に修士課程を、その修士の学生が修了する2年後の1999年には博士課程を開設し、卒業生のキャリアアップの受け皿を作ってきました。ただ、看護学は実践の科学ですので、臨床（臨地）看護の経験はどんなキャリアアップにとっても重要なキャリアになるということから、他の学部のようにストレートで大学院に進学するというケースは一部を除いてほとんどありません。そういうわけで皆さんは、一度は臨地臨床でキャリアを積むということになるのですが、患者さんや住民の皆さんのそばで看護を実践していると、その魅力に取り付かれて、もう大学院に戻って勉強するというよりは、日々目の前の健康問題に悩み、解決法を探り、夢中で看護をやっているといった状況ではないかと察します。

「うちの学生はあんまり大学院に戻ってこないね…」と教員の間で話が出ると、きまって「きっと臨床（臨地）が面白いんだろうね」という話になり、「うちの教育は、臨床がおもしろいと感じるような教育だったから…、仕方ないね」という話になります。

それでも毎年数人の卒業生が修士課程や博士課程を受験してくれます。彼らに聞くと「解決困難な事例があったたびたび壁にぶつかる、看護の質が気になるけどどのように手をつけていいかわからない、エビデンスをちゃんと検証できるようになりたい、病院や地域の看護ってこれでいいのか、このまま毎日今やっていることをやっていたいのだろうか、経験を積んだら看護師長になって看護部長になるというのなんか違う気がする…」など

などさまざまです。だいたい3年目くらいから感じ始めて7年目くらいで「ちょっと現状に甘んじるのは自分的にはがまんできない」感じになり、相談にくるという卒業生が多く見受けられます。それでもその時に、結婚して子供が生まれた、家を立てた、親が病気になったなど、さまざまな状況が覆いかぶさり、「大学院なんて、とても行けない」という人も多いようです。しかし冷静に考えるとやりくりできないこともないわけで、休職制度や授業料免除や奨学金の制度も利用できます。幸いなことに看護師の再就職は、いましばらくは売り手市場で、病床数を減らす国の施策が進むとはいえ、地域での看護師需要は増えると予測されますし、仲間と一緒に事業を起こすチャンスも考えられます。

4年制大学で学士を取得したことは、大学院への扉の鍵を持っているという意味を持ちます。現在新卒看護師の中に占める4年制大学卒の人材は30%を超えましたが、まだまだ大学教育を受けた人は少数派なのです。是非自分たちが有利な条件を兼ね備えていることを認識し、大学院で学びを深めることを考えてほしいと思います。

人が健康を脅かされて示す反応の複雑さ、またそれに対して看護が行うアプローチの根拠と広がり、もしそれを自分の力で言語化できれば、そしてベッドサイドで実現できれば…、学問としての看護も実践としての看護もその向こうに可能性をもって、皆さんを待っています。まずは、あなたが希望する領域の教員に連絡を取って相談をしましょう。

<http://www.u-hyogo.ac.jp/cnas/graduate/exam/index.html>の入試情報の一番下に連絡先リストがあります。

2015年 けやき祭り

平成27年度けやき祭り実行委員長
3回生 大狩あかね

当日のけやき祭り開催に至るまで、ひたすら晴れることを祈っていました。それは、昨年とは大きく変化を入れて、屋外を中心とした開催へむけて準備をしていたからです。企画をしている中で、一つの行事を1から考えて成功させるということは本当に難しいことであると痛感し、またそれと同時に一つの行事を、思い描く“けやき祭り”のために試行錯誤を繰り返し、近づけていくことの面白さを知りました。

もちろん毎日の授業が終わってから、けやき祭りについて考えたり書類を作ったり連絡したりすることは大変という一言では表せないくらいで、毎日毎日けやき祭りについて考えていました。しかし、ほかのメンバーと協力して意見を求めたりして、なんとか前日を迎えることができ、本当にわくわくしていました。当日は嬉しいくらいに晴れてくれて、お祭り日和となりました。朝からいろいろとハブニングもあり、大慌てでしたがその時もみんなの協力もあり、無事開会することができました。お客さんも、思っていた以上に来てくださり皆さんの笑顔を見ることができて

素直に嬉しかったです。このけやき祭りは、大学の学園祭の中でも地域の方との交流を深めるということに目を向けている学園祭であり、当日のお客様の年齢層も幅広く、毎年来てくださる方・親子そろってくださる方など様々でたくさんの人と話す機会ができました。

このけやき祭りの実行委員長を務めさせていただいて、ほんとうに良い経験をさせていただいたと思います。みんなの意見をまとめながら話を進めていくことの難しさ、“報告・連絡・相談”の大切さ、メールだけでなくきちんとface to faceで話すことの大切さを実感しました。

フリーマーケットやその他のお店・企画でもたくさんの方に参加いただいたおかげでこのように成功したと思えるお祭りができました。今回、新しいことに挑戦して成功したところもありますが、改善すべき点もありました。来年度もけやき祭りが開催されます、年々良いものにしていくためにも、今年の改善点を後輩へと伝えて来年のけやき祭りをより良いものにしてほしいです。

けやき会 主催セミナー

平成27年5月17日

阪神淡路大震災から20年 ～3つの立場から見た災害と防災～



講師

兵庫県立大学地域ケア開発研究所所長・広域ケア開発研究部門教授
山本あい子先生
神戸市保健師 濱裕子様（兵庫県立看護大学2期生）
明石花園小学校区ボランティア花園 ボランソルジャーの皆様

今年は阪神淡路大震災から20年目という節目の年という事で、阪神淡路大震災を一つの教訓としてもう一度考え直し、今後の災害時に備えてできる事は何かを見つめる時間を持てるよう、3組の講師の方々をお招きし、講演会を開催いたしました。

山本あい子先生には本学の取り組みや、災害看護学の視点から見た災害時における活動や支援のあり方についてご講演いただきました。濱様には、ご自身が被災された体験と、東日本大震災で保健師という立場で活動された経験をご講演いただきました。ボランソルジャーの皆様には、阪神淡路大震災を地域で被災された経験と、そこから生まれた地域での防災対策などの取り組みについてご講演いただきました。

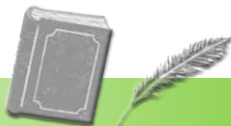
3つの立場から見た災害と防災についてお話いただき、改めて20年の時の流れを感じました。そして、減災、防災に対する看護の立場からの取り組みの必要性、地域のつ

ながりの重要性を再認識しました。また、意見交換の場では、様々な立場の方々と交流を深め今後の災害時に備えてできる事についてヒントをいただきました。常に一歩先を考え、色々な機関や人を巻き込み目標を実現させていっておられるボランソルジャーの方々からは大きなパワーをいただきました。

参加されたみなさんは、教室を出られるときには興奮で生き生きとされていました。前向きな大きなパワーが生まれるのを感じた時間でした。



大学院のススめ



大学院博士前期課程、博士後期課程で学問を修めるということ

兵庫県立大学大学院 看護学研究科長 片田 範子

皆様お元気で秋を迎えていらっしゃいますか？どうもこの号は大学院がテーマのようです。開設当初からこの大学にお世話になり、やっと卒業を迎えつつある者としてどう書けばよいのかなと、思案していました。

兵庫県立看護大学の開学のときから大学院を作ることは計画の中にありました。学部で教育で良い看護が出来る人々を育てたら、その人たちが戻ってきてさらに看護を変えることが出来る人々を育てる場を用意しなければならないということです。しかも、それまで日本にはいなかった、高度実践が出来る人々を育てたいという思いです。良い看護が出来る人々が臨床に出て行かれて、埋もれてしまわないように、良い看護を実践出来る環境を作っていけるような人々が必要と信じて作ったプログラムです。その甲斐あって、まだ専門看護師が何をする人か分からない現場の中に飛び込んでいき、パイオニアとしての役割を取ってくれた人々を輩出することになりました。看護を必要とする人々がいるところにこだわり、そこに

いる看護職が良い看護をしていけるようなモデルとなり、相談に乗り、必要な職種間の調整を行える人々です。倫理的な課題、研究への舵取り、教育的関わり方も自分の技術として使える看護職として、他の看護職がやる気を持ち、人々に接することが出来る現場作りをしていると思います。この修士課程を作っていく段階は、専門看護師教育課程の認証制度づくりも同時進行でした。日本看護系大学協議会で教育課程を認定する仕組みを作り、看護協会にそれぞれの領域の分野を認めてもらい、個人認証をしていただけるような仕組みも作って、修士教育を始めた大学です。その間には阪神淡路大震災もありました。それでも教員はめげずに、学部の次の修士課程を作りました。

そして、修士課程の修了生を出す前から、今度は博士後期課程の開設を目指したわけです。学問は積み重なって体系化しながら作られていきます。南先生は学派を作りたいと看護大学開学のときに仰いました。学派がどのように生み出されるのか、まだ分からなかったとき、それでも臨床にこだわり、人々に必

要な看護の知識を生み出し、それをつなげていくプロセスが必要だと思っていました。大学は最新の知見を生み、それを持って社会を変えうる力を育てるところではないかと思っています。それには、博士という自分の足で立ち、何が必要なのかを説得し、そして、それを継続していく力を持つ人たちの育成が必要だと思ったのです。看護を語る次の場面を作り、さらに社会への発信を身をもって継続する人たちを出していくことで、社会への貢献を具現化することです。ですから、皆さんが本学の財産です。皆さんが力を出せる場は広がっていきます。教員側のことを書いたような気もしますが、常にそこにいたのは門をたたいてくださった皆様であり、先輩なのです。あなた方が臨床を語り、そこでの発見に気づいて変っていく様はすぐダイナミックです。卒業して、修了したあとに、見せていただく実践や活動もまた、見事です。

自分自身のことですが、学部を卒業したときは「働きたい」

と思い、臨床を目指しました。それでも数年して、これだけでは下準備が出来てはいないかとも思い、自然と修士の道を進んでいました。修了したときはもうこれで大学へは戻らないかなとも思っていました。その後の臨床経験の面白かったこと。自分自身を使って、多様な社会も見え始めます。しかし9年後には、枯渇状態にいないのではないか、これはまだ足りなかったのだと思った自分もいました。不思議と博士後期課程を終えたときにはヤッター感はなく、これからだと淡々と思ったようです。ですから、次にやるべきことが見えるようになり、積み重ねていくべきことが見えるようになるのではないかなと思います。自分と看護を開放させていくプロセスが、社会を変えていく力になるのではないかなと思います。是非是非母校に戻ってきてください。あなた方を育てた学派を今度はあなた方が育てていく番だと思います。



高度実践看護コースで学ぶ

兵庫県立大学看護学部 成人看護学 森 菊子

本学では、がん看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、成人看護学、老人看護学、在宅看護学において高度実践看護コースがあります。平成27年1月1日現在、(社)日本看護協会に登録されている専門看護師の総計は1,466名ですが、そのうち172名が本学の修了生です。専門看護師の約10%が本学の修了生であり、皆様、色々な場で活躍されています。

高度実践看護コースで学ぼうと思う理由には、対象を理解することや療養・日常生活を支援する知識・技術が自分に足りず、看護師としての力のなさを感じたり、良い看護が提供できるようスタッフの力を伸ばしたい、相手に説明できる力をつけたいなど、様々です。また、臨床経験年数も様々ですが、それぞれがそれぞれの目的を達成すべく学んでいます。

授業に参加するにあたっては、課題をこなして参加することでも多く、学生はその準備に日々追われていますが、色々な文献、本を読み、ディスカッションを行うことで、知識の幅を広げた

り、深めたり、また、他者に自分の考えを伝える力を養っていきます。学生さんが「事例は出てくるが、説明できない」と言っていたのですが、理論などを用いて、そこに起きていた現象を説明できる力を養っていきます。また、今まで全然関心のなかった分野の知識を得たりできることは、本当に興味深いことです。

実習では、高度な実践能力を養うということが求められますが、これまでの実践での経験を活かしながら、新たな知識・技術に基づいた実践力を高めたり、指導者である専門看護師の卓越した実践からすごい技を学んだりできます。

大学院で学ぶという一歩を踏み出すには、色々なタイミングもあると思いますが、大学院に入学してから結婚されたり、子育てをしながら学ばれたりする人もおり、家族の理解を得ながら頑張って学んでいらっしゃる方もいます。学びたいと思った時、いつでも相談に来てください。皆さんと一緒に看護を探究していけることを楽しみにしています。



研究コースへの誘い：臨床の課題を解決する研究力

兵庫県立大学看護学部 基礎看護学／生活機能看護学 坂下 玲子

「大学院なんてとてもとても・・・」「研究者なんて無理！」皆さんに大学院を勧めると返ってくる言葉です。確かに本学部は職業創造ができる看護職の育成を理念にしています。しかし、臨床で経験を積むだけで、思うようなケアが提供できていますか？

従来、確かに大学院は研究者養成の性格が強かったと思います。修士課程、博士課程と進み、そして大学教員として教育・研究を行うというのが一般的なイメージかもしれません。大学教員や研究者を自分の将来像としてイメージできない皆さんがしり込みする気持ちもわかります。しかし、少子高齢化や疾病構造の変化など健康問題が山積する現代社会において大学院に求められているのは、現実世界を変革していける多様な人材の

養成です(文部科学省、2005)。

皆さんは日々、目の前の患者さんに少しでも質の高い看護を提供し支援したいと努力しているでしょう。でも自信を持って最良のケアが提供できていると言えますか？「なんだかうまいかないな」ともややも悩んでいる人もいるでしょう。何がうまいかないのか、どうすれば問題が解決するのか、まずは困りごとを①解答可能な問いとして設定することが必要になります。そしてその問いを解くために②情報を収集・吟味すること、③状況判断をして新しいケアを計画・実践し、④成果を科学的に評価し、⑤ケアを改善していくことが必要になります。これらの過程を確実に実施するためには研究力が必要になります。

博士前期課程（修士）研究コースでは、専門領域の健康課題について知識を広く獲得し、対象を取り巻く健康課題や看護の課題を整理、精錬し、研究手法を用いてその課題に探索的に取り組む能力を修得します。

学部教育において私達が最も大切にしてきたのは「患者中心の看護」でした。それはCNAS魂として皆さんの看護の芯にあると思います。そんな皆さんだからこそ、研究力を身につけ看護実践をよりよいものにしていくって欲しいのです。



次世代看護リーダーコースの紹介

兵庫県立大学看護学部 看護システム学／組織看護学 増野 園恵

同窓生の皆さんお元気ですか。平成25年度より新たにスタートした大学院博士前期課程の次世代看護リーダーコースについてご紹介したいと思います。

本コースは、保健・医療・福祉などのさまざまな実践現場において看護を実践する中で、現状に問題意識を持ち、変化を起こしたいと考えている意欲ある看護専門職が、実践の場でリーダーシップを発揮していくために必要な能力を修得することを目的としています。組織看護学領域と地域看護学領域が共同で開催しており、働く場に関係なく組織の変革に取り組む人材の育成を目指しています。

より実践的な教育を展開するため、本コースは仕事を続けながら大学院で学ぶことができるカリキュラムを提供しています。必修科目を土曜日に開校するなど働きながら就学できるよう工夫しており、病院の看護師や保健所や産業分野で勤務する保健師などが学生として学んでいます。週末のクラスでの学習と週日の実践を行き来しながら、実践的な能力の育成につながっています。また修論では、所属する組織の実際の課題解決の

ためのプロジェクトに取り組みます。

大学卒業から数年が過ぎ、現場で中堅としてさまざまな場面でリーダーシップの発揮が期待されている人や日々の実践の中でもっとちがったやり方があるのでは、仕組みを変える必要があるのではと感じている人が本コースの対象者です。カリキュラム等コースの詳しい紹介、在校生からのメッセージ等をコース専用ホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。管理職を目指している必要はありません。「実践現場を変えたい！」と思っているあなた、一度、コース担当教員にご相談ください。

コース専用ホームページ <http://www.jisedai-cnas.org/>

【担当教員】

組織看護学 増野園恵 sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp
地域看護学 牛尾裕子 yuko_ushio@cnas.u-hyogo.ac.jp
塩見美抄 misa_shiomi@cnas.u-hyogo.ac.jp



5年一貫博士課程「災害看護グローバルリーダー」プログラムへのお誘い

兵庫県立大学地域ケア開発研究所 山本あい子

兵庫県立大学同窓会けやき会会員の皆様、こんにちは。少し涼しくなり、夏の終わりが見えてきたと思った途端、台風による洪水や阿蘇山噴火等のニュースが飛び込んできました。気候変動が多くの災害発生に関わっているとのことですが、日本はその影響をもろに受け始め、今後も災害に見舞われる可能性があります。「災害は忘れたころにやってくる」ではなく、災害は日常的に発生することから、「災害との共存」が必要な時代に入ったようです。

皆さん既にご存知のことと思いますが、平成24年から文部科学省の助成を受けて、博士課程リーディングプログラム「災害看護グローバルリーダー」教育プログラムを開始しました。これは5年一貫の博士課程で、高知県立大学を基幹校として、千葉大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学、そして兵庫県立大学の5大学による共同教育課程です。国立2校、公立2校、私立1校が力を合わせて、国際的に通用する災害看護のリーダー育成に挑戦しています。

2011年に発生した東日本大震災の経験から、昨今多発する大規模災害への対応には、様々な職種と協同して活動しつつ、必要な決定を行いうるリーダーの必要性が明らかとなりました。リーダー育成に向けて、物事の本質や問題解決に必要な看護理論と研究方法等を含む看護学の学問基盤に関する科目群、災害医療学や専門職連携実践論などグローバルリーダーに必要

な学際的科目群、災害看護活動論ⅠからⅢや災害看護倫理等の災害看護学の科目群、災害看護学演習、災害看護学実習、そして研究支援科目群の6科目群を設けています。これらの科目の中には、災害看護グローバルコーディネーション論、災害看護理論構築、環境防災学、危機管理論、グローバルヘルスと政策、災害社会学など等、魅力的な科目を描いています。これらの科目を学ぶことで、確固とした看護学の基盤を作り、問題解決力、国際力、学際力、変革力、対応力等、リーダーに必要な力を育成します。

本プログラムへの入学は、5大学の内から一大学を選び入学します。1校からそれぞれ10単位を履修し、修了要件として50単位以上の履修が課せられています。地理的に離れた5大学で学生が相互に学べるように、TV会議システムで5大学をつなぎ、遠隔授業が行われています。最初は学生も教員も戸惑いますが、直に慣れて会話もスムーズに行えるようになっていきます。

挑戦と書きましたが、学生と教員共に災害看護グローバルリーダー像を模索しつつ、教育内容や教育方法を検討しつつ、取り組みを続けています。多発する災害に対して、看護は何ができるのか、共に学び考えてみませんか？関心のある方の挑戦をお待ちしています。

養護教諭教職課程より

養護教諭一種免許状が取得できる教職課程は、平成16年(2004)年度に県立大学の統合とともに開設され、本年度で開設12年目を迎えました。本年度は12名という多くの学生とともに勉学を進めています。

ここ数年は、毎年、現役生からの採用試験最終合格者が出ています。そして卒業後すぐに教員となる方、看護師としてのキャリアの上に教員を目指し始めた方、さらには養護教諭の経験の上に大学院での研究を目指す方も出てきました。卒業生は兵庫県内に限らず、近隣自治体で活躍しています。

徐々に厚みを増してきた教職課程。そこで、さらなるキャリアアップの機会を提供できないかと模索しています。

ひとつ目は、講習会や談話会の機会です。昨年度は、米国スクールナース研究者の講演会への協力、性教育に造詣の

深い養護教諭の講話会といった機会を設けました。今後も研鑽の機会を設けていきます。

ふたつ目は、養護教諭専修免許課程の設置です。大学院看護学研究科看護学専攻の小児看護学(研究コース・CNSコース)および地域看護学(研究コース)に、来年度の設置を目指しています。看護学に根差した高度な実践力を有する養護教諭を養成していきます。

HP等を通してご案内します。どうぞ、目を通してください。

教職課程では、養護教諭を志望する卒業生(二種免許取得者を含む)への相談にも随時応じています。遠慮なくお問い合わせください。

教育学系 准教授 池田雅則

masanori_ikeda@cnas.u-hyogo.ac.jp

地 域 看 護

ひょうご保健師研究会へのお誘い

ひょうご保健師研究会は、兵庫にゆかりのある保健師を対象に、参加者相互の研鑽を図ることを目的に平成20年度に設立された会です。

定例研究会を年3～4回、公開研究会を年1～2回おこなっております。保健師の世代交代が進む今、こんな保健師になりたいと保健師になったのに、現実の壁に阻まれ道に迷い始めた方、分散配置で目指すべき保健師像がわからない方、年齢が大きく離れ、若い保健師にどう活動を見せたいかわからなくなった方、原点に戻るヒントや明日からの活動への光を一緒に探しませんか？

<H27年度の予定>

年間テーマ:「援助の成果と課題がみえる訪問記録って!？」

定例会 ※会員対象

第1回 4月18日(土) 終了

第2回 9月12日(土) 終了

第3回 3月5日(土) 13:30～15:30

公開研究会

平成28年1月30日(土)

地域看護同窓会しています！

保健師はもちろん、地域看護に関心がある卒業生(ゼミ生でなくても)を対象に年1回(毎年9月ごろ)同窓会をしています。懐かしい学び舎や学友に会いに来ませんか。

地域看護領域ではHPを開設していますので、生涯・広域健康看護講座Ⅱ 地域看護領域HP <<http://chiiki-cnass.jp/>>をご覧ください。

母性看護領域からのお知らせ

母性看護学領域同窓会

去る6月14日に母性看護学領域卒業生・修了生の同窓会を行いました。教員を含め36名の方にご参加いただき、お互いの親睦を深めたり、日々の悩みを語ったり、情報交換をしながら楽しいひと時を過ごしました。また、平成26年度博士前期課程修了生により、修士論文の成果を発表していただき、活発な質疑応答が行われました。

来年も6月頃に同窓会を開催する予定にしています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

母性看護事例検討会

母性看護領域では、母性看護の実践において直面している事例に焦点を当て、その事例に関する問題や課題に対する具体的な解決を考えること、参加者自身の気づき

や理解を深めることを目的に事例検討会を行っています。

卒業生・修了生の皆様はどなたでも参加可能です。事例を提供してみたい方や、参加してみたい方は、ぜひ下記までご連絡下さい。

日 程：8月を除く、毎月第1水曜日

(今年度の開催日程：11月4日、12月2日、1月6日、2月3日、3月2日)

時 間：18:30～(18:00会場)

場 所：明石看護キャンパス 地下1階大会議室

会 費：200円(資料及び茶菓子代)

連絡先：母性看護事例検討会事務局(川下/相澤)

【電話】078-925-9441

【メール】naoko_kawashita@cnas.u-hyogo.ac.jp

小児領域同窓会 (Sake-net) のお知らせ

今年度は、平成28年3月13日(日) 14時より、大学にて、同窓会を開催します。卒業生であれば、どの方も参加して頂けますので、興味のある方はぜひ、ご参加ください。

なお、詳細等は、<http://www.dosokai.ne.jp/u-hyogo.childhealthnursing/?menu=cms7>をご覧ください。

会報発行協力金協賛者一覧 (平成27年9月15日 現在)

■平成27年

特別会員

鶴 飼 和 浩
鶴 山 田 治
片 田 子
野 並 子
松 田 子
南 本 子
山 本 子
吉 本 子

平10

鈴木 (東) 和 代
得平 (新川) 佐 織
竹 原 歩

平12

糸原 (田村) 美晴

平14

槻木 (戸川) 直子

平16

小 巻 京 子
中 地 陽 子

平17

武 内 玲

平18

水 野 健 司
宮 城 十 子
竹 村 和 子
渡 邊 佳 世

平19

福 本 愛

平23

池 田 裕 美

平26

伊 藤 麻 里 子
山 崎 由 美

平11博前

伊 波 早 苗

平12博前

森 菊 子

平14博前

松 枝 美 智 子

平15博前

菅 原 よ し え
長 尾 匡 子

平16博前

松 尾 和 枝

平17博前

佐 渡 公 実 子
仲 村 直 子

平18博前

永瀬 (牛島) 由紀子
玉田 (三浦) 田夜子

平19博前

片岡 (近藤) 千明

平20博前

北山 (大塚) 奈央子

平22博前

井 上 知 美

平24博前

中 野 宏 恵

平25博前

濱 上 亜 希 子

平26博前

黒 田 博 美

平14博後

渡 辺 か づ み

平17博後

呉 小 玉
近藤 (佐藤) 麻理

平21博後

工 藤 美 子

皆様ご協力ありがとうございます。会報の一部に使わせていただきます。

けやき会からのご案内



平成27年度 けやき会 新役員名簿

会 長 芝 田 健 輔
副会長 井 上 知 美、藤 原 史 博
会 計 鎌 田 奈 津、森 舞 子
書 記 茅 野 幸 絵、犬 山 知 子
庶 務 武 内 玲、奥 村 和 代

平成27年度より、茅野幸絵さん、奥村和代さんが新役員となりました。

役員一同頑張っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

今年の夏、新国立競技場の建設費用めぐり、建築家・安藤忠雄氏をテレビで拝見する機会がありました。夏暑く、冬寒い、決して快適とは言えない学舎ですが、看護職に必要な「環境を整える」思考を育ててもらったように思います。また、学舎ネタで話が盛り上がるのは、CNASあるあるではないでしょうか。そんな学舎は、開学から20年経っても、きれいな状態を保っています。また、けやきもすくすくと成長しています。久しぶりにけやき並木を通り、安藤忠雄氏の世界へお越しになりませんか？あの頃の気持ちを思い出しリフレッシュ！！できるかもしれません。

兵庫県立大学看護学部同窓会 けやき会平成26年度決算書・平成27年度予算案

【決算書】収入の部 (H26.4.1～H27.3.31) 平成27年5月12日

費目	平成26年度決算額	備考
会費		
`14年度 学部入	¥1,000,000	100人×¥10,000
`14年度 修士入	¥110,000	11人×¥10,000
`14年度 博士入	¥20,000	2人×¥10,000
雑収入	¥1,842	利子
学友会からの収入	¥0	平成26年度分は平成27年度に振込ただけ
前年度繰越金	¥8,481,789	
収入合計	¥9,613,631	

【決算書】支出の部 (H26.4.1～H27.3.31)

費目	平成26年度決算額	備考
I ホームページ		
作成費・年間管理費	¥84,000	
II 樺まつり 総会・講演会		
案内印刷・郵送	¥243,982	
講演会謝金・交通費・雑費	¥59,116	
III 会報		
会報作成・郵送費	¥210,720	
IV 事務		
消耗品費	¥11,602	
通信費	¥0	
V CNAS 基金への寄付		
寄付金	¥300,000	
VI その他		
兵庫県立大学学生飛躍基金	¥300,000	
会議費	¥9,100	
交通費	¥31,720	
茶菓代	¥1,155	
野並葉子先生感謝の会 花束	¥5,400	
振込手数料	¥1,080	
支出合計	¥1,257,875	

平成26年度決算残高 収入総計 ¥9,613,631
支出総計 ¥1,257,875
差引残高総計 ¥8,355,756

平成26年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

監査 徳原典子 小巻京子

兵庫県立大学看護学部同窓会
けやき会CNAS基金 平成26年度決算書

平成27年5月12日

【決算書】収入の部 (H26.4.1～H27.3.31)

費目	平成26年度決算額	備考
I 寄付		
寄付一 1	¥300,000	兵庫県立大学同窓会けやき会
寄付一 2	¥27,974	野並葉子先生感謝の会
II 利息	¥104	
III 前年度繰越金	¥377,335	
収入合計	¥705,413	

【決算書】支出の部 (H26.4.1～H27.3.31)

費目	平成26年度決算額	備考
I 母校への寄贈	¥226,591	寄贈品(ハナミズキ植樹、家電、季節家電等)
II 事務		
消耗品費	¥1,812	
III その他		
振込費	¥648	
支出合計	¥229,051	

平成26年度決算残高 収入総計 ¥705,413
支出総計 ¥229,051
差引残高総計 ¥476,362

平成26年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

監査 徳原典子 小巻京子

【予算案】収入の部 (H27.4.1～H28.3.31) 平成27年5月17日

費目	平成27年度予算案	人数	会費
会費			
`96年度 学部卒業	¥264,000	33	8,000
`97年度 学部卒業	¥520,000	52	10,000
`98年度 学部卒業	¥650,000	65	10,000
修士卒業	¥60,000	6	10,000
`99年度 学部卒業	¥220,000	22	10,000
修士卒業	¥100,000	10	10,000
`00年度 学部卒業	¥190,000	19	10,000
修士卒業	¥30,000	3	10,000
`01年度 学部卒業	¥280,000	28	10,000
修士卒業	¥0	0	10,000
`02年度 学部卒業	¥130,000	13	10,000
修士卒業	¥10,000	1	10,000
`03年度 学部卒業	¥130,000	13	10,000
修士卒業	¥20,000	2	10,000
`04年度 学部卒業	¥130,000	13	10,000
修士卒業	¥30,000	3	10,000
博士卒業	¥10,000	1	10,000
`05年度 学部卒業	¥340,000	34	10,000
修士卒業	¥30,000	3	10,000
`06年度 学部卒業	¥200,000	20	10,000
修士卒業	¥50,000	5	10,000
`07年度 学部卒業	¥390,000	39	10,000
修士卒業	¥70,000	7	10,000
博士卒業	¥10,000	1	10,000
`08年度 学部卒業	¥260,000	26	10,000
修士卒業	¥20,000	2	10,000
`09年度 学部卒業	¥770,000	77	10,000
修士卒業	¥40,000	4	10,000
`10年度 学部入学	¥140,000	14	10,000
修士入学	¥10,000	1	10,000
博士入学	¥0	0	10,000
`10年度 学部卒業	¥160,000	16	10,000
修士卒業	¥20,000	2	10,000
博士卒業	¥10,000	1	10,000
`11年度 学部入学	¥40,000	4	10,000
修士入学	¥0	0	10,000
博士入学	¥0	0	10,000
`11年度 学部卒業	¥340,000	34	10,000
修士卒業	¥0	0	10,000
博士卒業	¥10,000	1	10,000
`12年度 学部入学	¥40,000	4	10,000
修士入学	¥10,000	1	10,000
博士入学	¥0	0	10,000
`12年度 学部卒業	¥290,000	29	10,000
修士卒業	¥0	0	10,000
博士卒業	¥10,000	1	10,000
`13年度 学部入学	¥20,000	2	10,000
修士入学	¥60,000	6	10,000
博士入学	¥0	0	10,000
`14年度 学部入学	¥100,000	10	10,000
修士入学	¥0	0	10,000
博士入学	¥0	0	10,000
DNGL 入学	¥0	0	10,000
`15年度 学部入学	¥1,090,000	109	10,000
修士入学	¥90,000	9	10,000
博士入学	¥20,000	2	10,000
DNGL 入学	¥20,000	2	10,000
前年度繰越金	¥8,355,756		
収入総計	¥15,789,756		

【予算案】支出の部 (H27.4.1～H28.3.31)

費目	平成27年度予算案	備考
I ホームページ		
年間管理費	¥84,000	
II 樺まつり総会・講演会		
案内印刷・郵送	¥300,000	
消耗品費	¥50,000	
講師謝金・謝礼品	¥30,000	
講師交通費	¥10,000	
III 会報		
会報作成・郵送費	¥230,000	
IV 事務		
消耗品費	¥10,000	
通信費	¥10,000	
V 寄付		
CNAS 基金	¥300,000	
VI 予備費	¥100,000	
支出総計	¥1,124,000	

収支差額 ¥14,665,756